

# こども食堂と社会福祉

## 研究内容

こども食堂とは「子どもが一人でも安心してこれる無料または低額の食堂」を指します。ポイントは、貧困家庭の子どもという限定はなく、「こども専用食堂」でもないという点です。

こども食堂について、食育、教育、地域福祉といった専門分野からの先行研究があるものの、社会保障法政策の観点からの研究はまだほとんどなされていません。そこで、こども食堂が「子どもの貧困」対策にとどまらず、社会保障における積極的かつ複合的な役割を担っていることを明らかにし、社会福祉における「多様な参加主体」の好例としての可能性を探求する研究を行っています。

こども食堂の定義、はじまり、類似施設、広がりの様子および現在の状況を概観し、こども食堂に関わる法制度一内閣府の「子どもの貧困」、農林水産省の「食育」、厚生労働省の「地域共生」一について分析しています。また、宮城県・山形県・東京都などにあるこども食堂へヒアリング調査を実施し、こども食堂の多様性や特徴を明らかにするとともに、こども食堂のもつ複合的な役割について検討しています。

こども食堂の課題としては、ボランティアの人材不足・人材育成を中心に、財政・情報不足やリスク管理などがあげられます。

関連論文：阿部未央「複合機能をもつ「こども食堂」と社会福祉」『山形大学法政論叢』第73号合併号45-87頁、2020年3月

## 関連キーワード

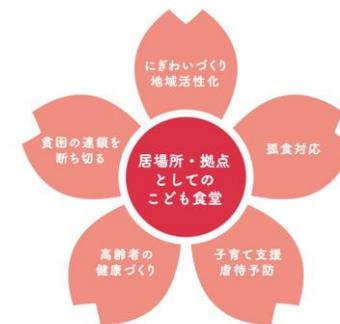
こども食堂、多世代交流、ボランティア、地域共生

## 地域・産学官連携の可能性

こども食堂の機能として、子どもの貧困対策、子どもの居場所づくり、子育て支援、高齢者の生きがい・健康づくり、地域共生、これらを含む機能として社会的排除の予防機能の6つの機能があると考えます。

こども食堂ほか、少子高齢化のなか多数の市民が社会福祉の担い手として地域活動に参加する時代にあっては、自治体や大学を含む関係機関が補助的に関わりながら活動の支援（攻めのサポート）およびリスクマネジメント（守りのサポート）を行っていくことが、活動の継続や安心・安全につながります。

図：仙台市のこども食堂「おりぎの食卓」（上）、全国こども食堂支援センターむすびえ（下）<https://musubie.org/project/research/>



## 研究者プロフィール

氏名 阿部未央 (ABE Mio)  
東北学院大法学部法律学科教授  
専門分野 労働法・社会保障法

## 研究者への連絡先

産学連携推進センター  
Email [srcenter@mail.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:srcenter@mail.tohoku-gakuin.ac.jp)  
電話 022-354-8122